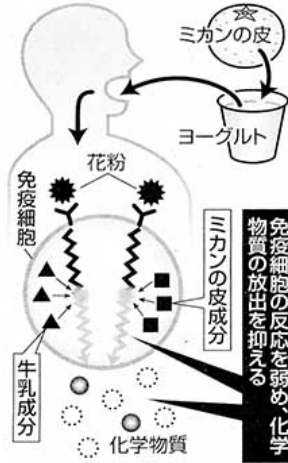


# 花粉症軽減 ミカンの皮＋ヨーグルト

花粉症の症状を軽減する  
愛媛大の研究のイメージ



グループは、温州ミカンの皮に含まれるポリフェノールの一類「ノビレチン」と、牛乳成分のたんぱく質、βラクトグロブリンに、それぞれ花粉症に関わる炎症反応を抑える働きがあることに着目。スギ花粉症患者26人に同意を得たうえで、すり潰したミカンの皮を混ぜた飲むタイプのヨーグルト(150g)を1日1回摂取してもらった。

26人には、摂取を始める前と摂取2週間後に、花粉症の原因物質を両目に点眼。それぞれ点眼30分後に表れた症状を比較した結果、全員でかゆみなどの自覚症状が著しく低下し、結膜炎の指標となる眼球表面の温度上昇も約半分に抑えられた。

花粉症は、体内に入った花粉に免疫細胞が反応し、ヒスタミンなどの化学物質が放出されるのが原因とされる。二つの成分の相乗効果で花粉による反応を弱め、化学物質の放出を抑えるとみられる。

菅原教授は「ミカンの皮は、漢方薬では『陳皮』と呼ばれる健康素材。牛乳アレルギーの恐れがある人に活用できないのは弱点だが、地元企業と連携して花粉症対策の機能性食品として開発したい」と話している。

## 相乗効果 抵抗力アップ

ミカンの皮とヨーグルトに含まれる成分を同時に摂取すると、花粉症患者の症状が和らぐ効果があるとする研究結果を、愛媛大の菅原卓也教授(食品機能学)らのグループが28日、岡山県で開催中の日本農芸化学会で発表した。花粉症への抵抗力を高める食品の開発につながる成果としている。

愛媛大グループ

竹田潔・大阪大教授(免疫学)の話「実際の患者で効果を確かめた点で、大きな価値がある研究だ。症状抑制のより詳しい仕組みの解明に期待したい」